

めぐみイエス・キリスト教会

2022年7月17日(日)第三主日礼拝
週報「通算第617号」



2022年標題聖句

第 I テモテへの手紙御6章17節～19節

《高慢にならず、頼りにならない富にではなく、むしろ、私たちにすべての物を豊かに与えて楽しませて下さる神に望みを置き、善を行ない、立派な行ないに富み、惜しみなく施し、喜んで分け与え、来たるべき世において立派な土台となるものを自分自身のために蓄え、まことのいのちを得るように命じなさい。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌268「御国の心地す」 p. 422

【交読文】 No.21 詩篇第62篇(抜粋) p. 895

【賛美Ⅱ】 新聖歌340「救い主イエスと」 p. 540

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲No.15「野に咲く花も空の鳥も」

【聖書朗読】 使徒の働き18章4節～11節(新約p. 272上段)

【礼拝説教】 《この町には私の民が》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所(使徒の働き18章4節～11節)

18:4 パウロは安息日ごとに会堂で論じ、ユダヤ人やギリシア人を説得しようとした。

18:5 シラスとテモテがマケドニアから下って来ると、パウロはみ言葉を語ることに専念し、イエスがキリストであることをユダヤ人たちに証した。

18:6 しかし、彼らが反抗して口汚くののしったので、パウロは衣のちりを振り払って言った。「あなたがたの血は、あなたがたの頭上に降りかかれ。私には責任がない。今から私は異邦人のところに行く。」

18:7 そして、そこを去って、ティティオ・ユストという名の、神を敬う人の家に行った。その家は会堂の隣にあった。

18:8 会堂司クリスポは、家族全員と共に主を信じた。また、多くのコリント人も聞いて信じ、バプテスマを受けた。

18:9 ある夜、主は幻によってパウロに言われた。「恐れなくて、語り続けなさい。黙ってはいけません。」

18:10 私があなたと共にいるので、あなたを襲って危害を加える者はいません。この町には、私の民がたくさんいるのだから。」

18:11 そこで、パウロは一年六か月の間腰を据えて、彼らの間で神の言葉を教え続けた。

●ポイント1. 「パウロは衣のちりを振り払った」とは？

※マタイの福音書10章14節～15節「主イエス様の教え」(新約p.18上段)

10:14「だれかがあなたがたを受け入れず、あなたがたの言葉に耳を傾けないなら、その家や町を出て行くときに足のちりを払い落とさなさい。

10:15 まことに、あなたがたに言います。さばきの日には、ソドムとゴモラの地のほうが、その町よりもさばきに耐えやすいのです。」

●ポイント2. 「ティティオ・ユスト」、そして「クリスポ」とは？

■**ティティオ・ユスト** コリントの住民で、その家は会堂の隣にあった。彼は「神を敬う」敬虔な異邦人であり、その家は、コリントにおけるパウロの伝道の一つの拠点となった。写本によっては「テトス」とも言われている。

■**クリスポ** 「巻き毛」を意味するラテン名で、多くのユダヤ人が採用していた名前。コリントの会堂管理者で、パウロの伝道によって、一家をあげて主イエスを信じた。例外的にパウロ自身が彼にバプテスマを授けた。

※第 I コリント1章14節「パウロが授けたバプテスマ」(新約p.326下段)

1:14 私は神に感謝しています。私はクリスポとガイオのほか、あなたがたのだれにもバプテスマを授けませんでした。

●ポイント3. 「主イエスの幻」と「一年六か月の長い期間」とは？

※第 I 列王記19章9節～18節「逃げ出したエリヤ」(旧約p.637上段右側)

※第 I コリント9章14節～15節前半「パウロの証しから」(新約p.339上段)

9:14 同じように主も、福音を宣べ伝える者が、福音の働きから生活の支えを得るように定めておられます。

9:15 しかし、私はこれらの権利を一つも用いませんでした。

◎先週の礼拝メッセージの概要【アキラとプリスキラ】

《パウロはアテネから、ローマ帝国アカヤ州の首都コリントにやって来ました。町はアクロコリント(566m)の山すそにあり、山頂にはアフロディト(愛の女神)の神殿があり、そこでの神殿売春は多くの人と富を引きつけていたのです。パウロは、そこでポントス(黒海沿岸地方)生まれで、アキラという名のユダヤ人と、彼の妻プリスキラに出会います。

ポントスには、早くからキリスト教会が存在していたと言われていました。なぜなら、聖霊降臨の時に、ヨハネ・マルコの家を集まって来て救われたディアスポラのユダヤ人の中には、ポントスから来た者もいたからです。彼らが故郷で伝道したのです。アキラとプリスキラは、ポントスで信仰を持ち、それからローマに渡ったのではないのでしょうか。

しかし、紀元49年のことです。第4代ローマ皇帝クラウディウスが、ユダヤ人は反乱を起こすと言う理由で、ローマ市内から追放したのです。それは、パウロが二人に出会う約一年ほど前のことでした。

パウロがコリントを訪れたのは、紀元50年頃のことです。もしカイザルによって、「ユダヤ人追放令」が発令されなければ、アキラとプリスキラは、コリントにおいてパウロと出会うことはなかったのです。

また、この二人が、天幕造りでパウロと同業者であったことは、決して偶然ではありません。パウロは、二人の家で天幕造りをして働き、そして安息日には、ユダヤ人の会堂において福音を伝えます。

そうこうしているうちに、シラスとテモテが追いついて来ます。この二人は、伝道旅行の旅費を預かっていたようです。それゆえ、パウロは、天幕造りを一時やめて、伝道に励むのです。パウロは、彼自身が経験したことから、このように勧めています。『神を愛する人たち、すなわち、神のご計画にしたがって召された人たちのためには、すべてのことが共に働いて益となることを、私たちは知っています。』と。》

◎お知らせ

※7月24日(日)の第四主日礼拝は、通常通り午前10時からです。また、7月31日第五主日礼拝は、特別メッセージとなります。